

7. 現代のデモクラシー理論

(西川氏による前年度講義録の

P36 の後に対応)

(1) **ポリアーキー (by R. Dahl)****Robert Alan Dahl** (1915-): アメリカ政治学者、政治的多元論を主張① **ポリアーキーとはなにか**ポリアーキー “Polyarchy” (Poly=多い / Archy=支配) → 「**多頭制**」

★政治分析手段であるデモクラシーに替えて用いるようになった

→デモクラシーという概念が生み出す混乱を避けるため

なぜなら、デモクラシーには「**理想の政治体制**」と「**現実の政治体制**」

の二つの意味があり、混同が生じやすいあらである

★**Dahl** はデモクラシーを**理想の政治体制**を表す概念であると定義した

→デモクラシーは、「全ての国民の要望に、責任を持って応える」

という側面を持つが、**現実**にそのような状態は存在し得ない

(地球上に完全な真空は存在しないのと同じこと)

→政治体制の分析手段としては不十分であるから、別の手段を模索する

★**Dahl** はポリアーキーを**現実の政治体制**を分析する手段として使用した=デモクラシーの概念から**理想・理念**を排除

→これにより、民主制の程度を客観的に測定することができるようになった

(冷戦期の「リベラルデモクラシー vs. ノン-リベラルデモクラシー」の戦いも、

客観的な価値判断ができず決着がつかなかった)

⇒ポリアーキーとは

現実の政治体制の、民主制の程度・変化を分析する手段である

② ポリアーキーとはどのような政治体制をさすのか

Dahl による、民主化に必要な8つの条件

- ① 組織を形成し参加する自由
- ② 表現の自由
- ③ 投票の権利
- ④ 公職への被選出権
- ⑤ 政治指導者が民衆の支持の下で競争する権利
- ⑥ 多様な情報源
- ⑦ 自由かつ公正な選挙
- ⑧ 政府の政策を投票あるいはその他の要求の表現に基づいて実行する権利

※これらの条件は、**二つの理論的次元**から構成される

◆ **自由化 (公的異議申し立て)**

公的異議申し立て＝政府に対する反対表明、異議申し立ての権利が認められている状態を指す

→つまり、政治体制の自由化の程度を示す

すなわち、自由な体制とは「**政府に対して意思表示ができる**」状態のこと

政府の行為に影響を与える機会、言い換えれば、**競争的政治**(ex.与野党間の競争)が実現しているか否かを表す尺度となる

→共産党のような一党独裁では意義表明は不可能

＝自由化は実現されていない

◆ **包括性 (参加)**

政治体制にどれだけ多くの国民が包括されているかを表す

言い換えれば、「**政府の行為に影響を与える権利、政治に参加できる権利がどれだけ多くの国民に与えられているか**」、ということ

それらの権利が与えられている人口の比率が高いほど、その体制は充実した包括性を持つと言える

(ex.制限選挙⇔男女普通選挙)

※ただし、この二つの条件は必ずしも連動しない！！

- ・一部の特権階級にのみ認められる公的異議申し立て or 選挙権
- ・普通選挙権は与えられていても、政府に反対する機会を持たない
(ex. ソ連は普通選挙を実現していたが、候補者は共産党一人のみ)

Dahl は混同されていた二つの次元を別個に抽出

→これにより、これらを基準にした、**政治体制あるいはその変化の分析、類型化**が可能になった

③ Dahl による政治体制の分類

X 軸: 包括性(参加)

Y 軸: 自由化(公的異議申し立て)

a. ポリアーキー

包括性が**高く**、自由度も**高い**

→理想的デモクラシーに最も近い

なぜなら、現実の政治体制が完全に民主化されることはないから

→**相対的に民主化された**状態を表す

高度に包括的で自由な体制

大多数の国民が**政治参加権**、**政府に反対する権利**を持つ

現代のほとんどの先進国がこれに該当する

b. 閉鎖的抑圧体制

包括性が**低く**、自由度も**低い**

→**国民による一切の政治参加が認められていない**状態を表す

ex. 近世ヨーロッパの絶対主義的国家(王政への批判は許されない!)

c. 競争的寡頭体制

包括性が**低く**、自由度は**高い**

→**政府に対する反対は認められるが、政治参加に対する権利は**

まだ付与されていない状態を表す



ex. 19C: 選挙権拡大以前のイギリスでは、野党の概念が既に存在していた
(loyal opposition = 野党)

→ **政府と反対派の競争的政治**が実現していたが、
政治参加は**一部のブルジョア層**のみに限られていた

d. 包括的抑圧体制

包括性が**高く**、自由度は**低い**

→ **選挙権は大多数の国民に与えられている一方で、政府への反対は弾圧される**ような状態

ex. ファシズム、ナチズム、ソ連、戦時下の日本など
(ヒトラーは選挙によって政権を握った！)

戦時体制下の日本: 男子普通選挙は実現

⇨ 大政翼賛会で政治参加を強要、共産主義や弁論の自由を抑圧
(ちなみに、権力集中の度合いは独伊に比べて小さかった)

※ **全ての政治体制が上の分類に当てはまる訳ではない！！**

→ ほとんどはその中間に分布する

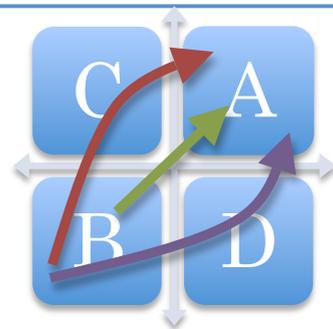
(ex. **セミ-ポリアーキー**)

④ 政治体制の歴史的変遷

Dahl はこれらの体制の関係を歴史的展開としてとらえ、
閉鎖的抑圧体制がポリアーキーに至る過程を分析した

- ① **B→C→A**: イギリス、大正期の日本
(大正デモクラシー: 政友会と民政党)
→ 戦時体制によって崩壊
- ② **B→D→A**: 帝国期のドイツ(ワイマール)
- ③ **B→A**: フランス革命

(※英字は③と一致)



★過程①は、最も安定したポリアーキーに発展しやすい

◆あらかじめ少数のエリート内で競争的政治が実現していた

→すなわち、競争的政治の規範、慣習が既に存在していた

◆その後新たな社会階層が政治に参加

→新たな階層は既に発達していた競争的政治の仕組みに容易に順応できた

= 政府と反対勢力の間で、相互安全保障の体系 (ルール) が成立していた

★過程②・③は、競争的政治の伝統がない状態で、一般大衆が政治に流れ込む

→社会階層間での対立が激化、体制が安定しない

★ 事実、過程①を経たイギリス政治は安定的に発展した一方、過程②を経た

ドイツではナチスが誕生し、イタリアでも革命が起こるなど、政治情勢は

極めて不安定であった

⇒安定的な民主政治の実現には、

なにより競争的政治の伝統 (政党内閣制など) が不可欠である

⑤ポリアーキー成立過程の分類

◆平和的な成立: イギリス → 最も安定的な過程

◆革命による成立: フランス

◆統治による成立: 日本

平和的な成立が最も安定するのは体制の正統性が持続するからである

⇔ 革命による王政打倒